

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和3年7月29日(2021.7.29)

【公開番号】特開2019-126500(P2019-126500A)

【公開日】令和1年8月1日(2019.8.1)

【年通号数】公開・登録公報2019-031

【出願番号】特願2018-9349(P2018-9349)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和3年6月18日(2021.6.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
操作されることによって第1状態と、第2状態とのいずれかの状態となることが可能な
操作手段と、

電源投入時において前記操作手段が前記第2状態となっているときに前記有利状態に制
御される確率に関する設定値の設定を許可するための設定許可状態に制御可能な設定許可
状態制御手段と、

設定された設定値に応じた確率により前記有利状態に制御可能な有利状態制御手段と、
可変表示に関する情報を、保留記憶として記憶可能な保留記憶手段と、
遊技媒体が進入可能な開状態と、該第1状態よりも遊技媒体が進入困難または進入不能
な閉状態とに変化可能な可変手段と、

前記可変手段を制御する制御手段と、

遊技者から視認不能な位置に設けられ、前記設定許可状態において設定値を確認可能な
設定値情報を表示可能な表示手段と、

可動体と、

電源が投入されたときに、前記可動体が正常に動作することを確認するための可動体動作
確認制御を実行可能な可動体制御手段と、

を備え、

前記保留記憶手段に保留記憶が記憶されているときに、電源が遮断され、その後、電源
が投入されて前記設定許可状態に制御された場合に、前記保留記憶手段に記憶されている
保留記憶が消去され、

前記可変手段が前記開状態であるときに、電源が遮断され、その後、電源が投入されて
前記設定許可状態に制御された場合に、前記可変手段が前記開状態から前記閉状態とされ
、

前記可動体制御手段は、電源が遮断され、その後、電源が投入されて前記設定許可状態
に制御されているときは前記可動体動作確認制御を実行せず、該設定許可状態が終了して
から前記可動体動作確認制御を実行し、

前記設定許可状態において前記操作手段が前記第2状態から前記第1状態となつた場合
に設定値が設定される、

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本発明は、可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機に関する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

従来、設定値を設定可能であって、保留条件が成立した始動入賞について保留記憶が記憶されるとともに、大当たりにおいて開放制御される大入賞口や普通図柄が当たりとなることで開放制御される可変入賞口（電チュー）を備えたパチンコ遊技機がある（例えば、特許文献1参照）。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

【特許文献1】特開2010-200902号公報

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

しかしながら、特許文献1にあっては、保留記憶が記憶されている場合や大入賞口や可変入賞口が開放制御されている場合に設定値が変更されることが考慮されておらず、設定値を的確に反映させることができないという問題がある。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

よって、本発明は、遊技機のコスト増を防ぐことができる遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

手段1に記載の遊技機は、可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大

当たり遊技状態)に制御可能な遊技機(例えば、パチンコ遊技機1)であって、操作されることによって第1状態と、第2状態とのいずれかの状態となることが可能な操作手段と、電源投入時において前記操作手段が前記第2状態となっているときに前記有利状態に制御される確率に関する設定値(例えば、設定値1～設定値3のいずれか)の設定を許可するための設定許可状態に制御可能な設定許可状態制御手段(例えば、CPU103がSa13の設定変更処理を実行する部分)と、設定された設定値に応じた確率により前記有利状態に制御可能な有利状態制御手段(例えば、CPU103が図23に示す特別図柄プロセス処理を実行する部分)と、可変表示に関する情報を、保留記憶として記憶可能な保留記憶手段(例えば、CPU103が図23に示す始動入賞処理を実行する部分)と、遊技媒体が進入可能な開状態(例えば、開放状態)と、該第1状態よりも遊技媒体が進入困難または進入不能な閉状態(例えば、閉鎖状態)とに変化可能な可変手段例えば、第1大入賞口や第2大入賞口712)と、前記可変手段を制御する制御手段(例えば、CPU103がS27の大当たり開放中処理を実行する部分)と、遊技者から視認不能な位置に設けられ、前記設定許可状態において設定値を確認可能な設定値情報を表示可能な表示手段と、可動体と、電源が投入されたときに、前記可動体が正常に動作することを確認するための可動体動作確認制御を実行可能な可動体制御手段と、を備え、前記保留記憶手段に保留記憶が記憶されているときに、電源が遮断され、その後、電源が投入されて前記設定許可状態に制御された場合に、前記保留記憶手段に記憶されている保留記憶が消去され(例えば、段落0296に示すように、新たな設定値が設定されたことに基づいて保留記憶をクリアする部分)、前記可変手段が前記開状態であるときに、電源が遮断され、その後、電源が投入されて前記設定許可状態に制御された場合に、前記可変手段が前記開状態から前記閉状態とされ(例えば、図21に示すように、パチンコ遊技機1に新たな設定値を設定するためにパチンコ遊技機1の電源をOFFにすることで、第1大入賞口や第2大入賞口712が閉鎖される部分)、前記可動体制御手段は、電源が遮断され、その後、電源が投入されて前記設定許可状態に制御されているときは前記可動体動作確認制御を実行せず、該設定許可状態が終了してから前記可動体動作確認制御を実行し、前記設定許可状態において前記操作手段が前記第2状態から前記第1状態となった場合に設定値が設定される、ことを特徴としている。この特徴によれば、設定値を的確に反映させることができる。